ロボコンプロジェクトにおけるワークショップ後の活動目的の見直しと変化

仲島渉、田中歩（徳島大学理工学部,）
玉有　朋子、森口　茉梨亜（ 高等教育研究センター　　）
有廣　悠乃（ 研究・産学連携部　地域産業創生事業推進課）
三輪　昌史（ 社会産業理工学研究部　）

１．背景

徳島大学ロボコンプロジェクト「とくふぁい！」は災害現場のレスキュー活動を題材とした「レスキューロボットコンテスト」で最優秀賞を取ることを目標に日々活動している。

図 1　レスキューロボットコンテスト 2022

図 2 ロボコン PJ　継続年数

昨年度に過半数の 1 年生が PJ を辞める事態が発生した。その原因として各々が PJ に入った動機を忘れている事、作業量等負担の偏りによる不満、リーダーからの指示に意味を見出せないなどが考えられる。これらの組織内での問題を解決するために、今一度 PJ 全員で話し合う必要があると考えワークショップを行った。

２．目的

ワークショップの目的は各々の PJ 活動への思いを共有し、当 PJ が抱えている課題の解決策を考えることを目的とした。

３．方法

最初に、全員で円状に座り自己紹介を行った。所属、呼んでほしい名前、好きなもの、PJ に入った理由を共有した。次に上級生が 1 年間の活動で気を付けていた事を話した。最後に全員でロボコンの問題点について考え、班ごとに解決策を発表した。

表 1　当日のスケジュール

ロボコンワークショップ　スケジュール概要　9/26(月)

9:50	0:10	あいさつ・概要説明	
10:00	0:35	チェックイン	自己紹介・好きなもの・ロボコンに入った理由
10:35	0:25	ストーリーテリングトリオ	
11:00	1:20	コレクティブストーリハーベスティング	上級生がどのような心境で1年間の活動を行ったかを話す。
12:20	1:00	昼休憩	
13:20	0:25	グループワーク①	人・関係性・技術・ビジョンやミッションについて良かったこと・良くなかったことについて班で話す
13:45	0:20	共有	
14:05	0:15	グループワーク②	人・関係性・技術・ビジョンやミッションについて理想の形を班で話す
14:20	0:15	休憩	
14:35	0:25	共有	
15:00	1:00	グループワーク③	人・関係性・技術・ビジョンやミッションについて解決策を班で話す
16:00	0:10	休憩	
16:10	0:20	チェックアウト・あいさつ	
16:30		終了	

図 3　ワークショップの様子

４．結果

ワークショップでは活発な意見交換を行い、次年度に執るべき改善案を図５のように出すことができた。具体的には PJ のメールアカウントを

共有し、イノベーションプラザやレスコン事務局とのやり取りがメンバーにわかるようにすることで連絡の手間を減らし、メンバーと状況を共有する案、班を研究班と設計班に分けて新たな技術の導入と実現を同時並行で行う案、メンバー間のコミュニケーションの機会を増やし組織の円滑化を図る案などである。1つ目のメールアカウントの共有、班の再編は早速実践に移し新体制での活動に生かしている。

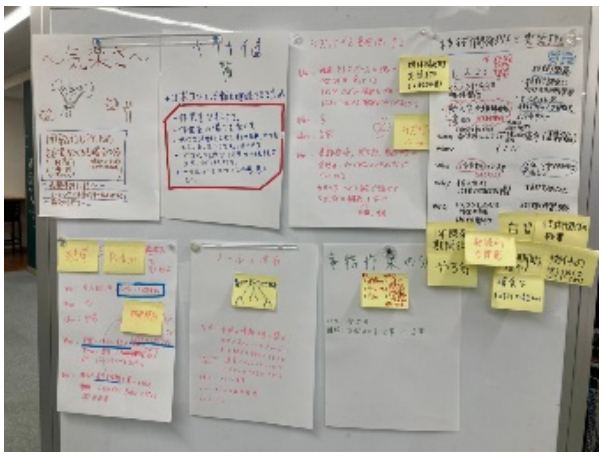

図 4　グループワーク　成果物①

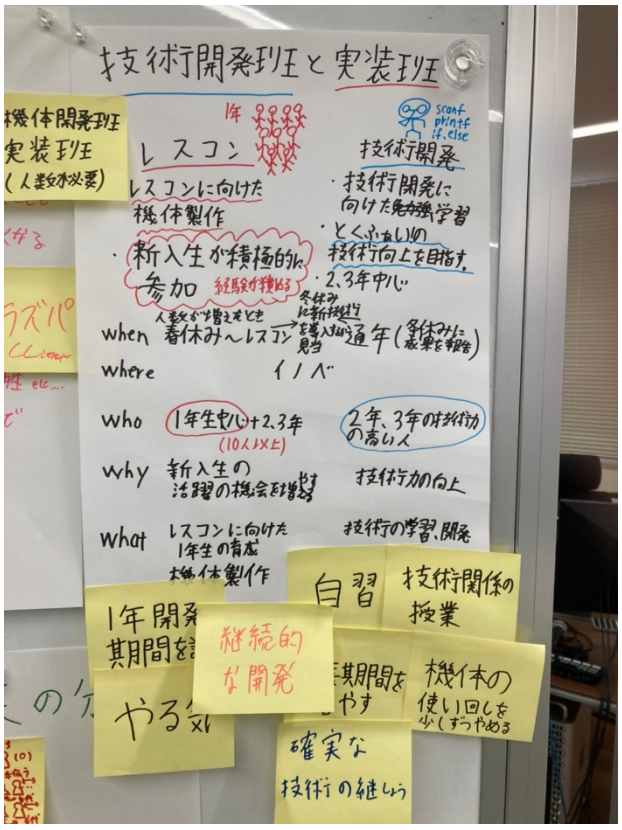

図 5　グループワーク　成果物②

ワークショップ直後に行われたアンケートにおける結果は以下の通りである。16人中14人(88%)が少なくない変化を実感したと回答した。

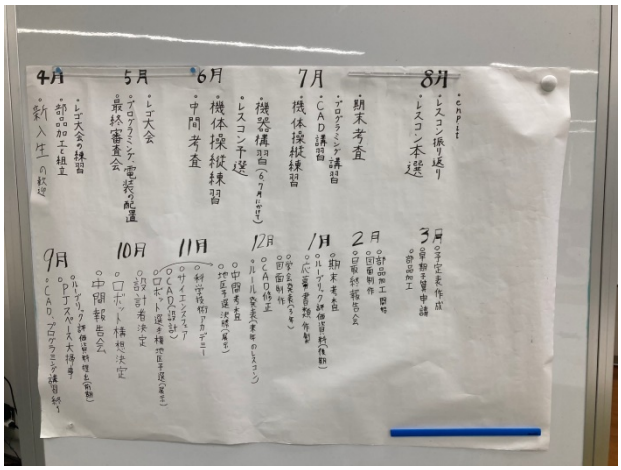

図 6　グループワーク　成果物③

図 7　ワークショップによる意識変化

5．考察・結語

アンケートにおけるワークショップによる意識変化について「ロボコンの活動について考えるきっかけとなった」「意見を言う・話し合うことの重要性に気づくことができた」などの好意的な意見が多かった。メンバー全員が自身もプロジェクトに参加する一員であると今一度認識する機会となった。述べ8時間になる長丁場であったが、メンバー間でじっくり話せる機会を得たことで、前年度の反省点を洗い出すとともに、改善案を話し合うことができた。このワークショップを境に1年間のプロジェクト活動にメンバー一丸となって取り組んでいく。